

論文内容の要旨

報告番号		氏名	奥田 真義
Validity and reliability of the Japanese Orthopaedic Association score for osteoarthritic knees 変形性膝関節症患者に対するJOAスコアの妥当性と信頼性の検討			

論文内容の要旨

【目的】日本国内の人口の高齢化に伴い、変形性膝関節症の罹患数は現在2530万人と推定され、増加の一途をたどっている。その治療は、疾患病期に応じて適切な方法が選択されるが、治療評価として医療者側からの評価法が多く用いられてきた。1990年代から、妥当性と信頼性の検証された患者立脚型評価法が用いられるようになった。一方、医療者側からの各種評価法については、その妥当性と信頼性は十分には検討されていない。今回、一次性変形性膝関節症患者に対する医療者側の評価法である日整会OA膝判定基準(JOA)の妥当性と信頼性について調査した。またJOA評価に影響をおよぼす患者因子の関与について検討した。

【方法】当院および関連施設において片側の膝関節痛を訴え、単純X線像で一次性関節症を認めた117例117膝のうち、85例85膝はJOAの妥当性評価を行うために用いた。平均年齢67.3歳、平均Body Mass Indexは23.8であった。日本版膝関節症評価尺度(JKOM)、the Medical Outcomes Study 36-Item Short-Form Health Survey(SF-36)、the timed up and go test(TUG)の3つの評価をおこない、それぞれの評価とJOAとの関連から、JOAの妥当性を検証した。残りの32例32膝(平均年齢69.8歳)は、JOAの信頼性を評価するために用いた。複数の評価者および同一の評価者による複数回のJOA評価を行い、検者間および検者内信頼性を分析した。

【結果】全てのスコア同士が互いに高い相関を示した。これによりJOAの併存的妥当性が示された。JOAの下位尺度と他の2つの評価基準の同じ下位尺度とが有意に相関したことから、JOAは収束的妥当性を示した。さらに、JOAとTUGが有意に相関したことから、JOAの構成概念妥当性が証明できた。検者内および検者間の信頼性は中等度からほぼ完全な一致を認めた。また内的整合性は高い信頼性を示した。これによりJOAの信頼性が証明できた。患者因子として年齢がJOAと有意に相関した。

【結論】日本国内で使用されている医療者側の評価法であるJOAの妥当性および信頼性が示された。日本整形外科学会が作成した医療者側の評価法の妥当性と信頼性を検証された初めての論文であり、今後もJOAは評価法として十分有用であることが証明された。